

— 第1回 市民（消費者）セミナー —

主催：全国あんしん探偵業協会

後援：名古屋市



記



—主催者挨拶 西橋会長より—



— 1 時限目 名古屋市健康福祉局 障害福祉部障害企画課 主幹 高倉 敦 様 —

～不登校、子ども、大人の引きこもりの実態と対策～

「ひきこもり」とは

- ・学校や仕事に行っていない
- ・コンビニなど親密な会話を必要としない場所には安定していくこともあるが、ほとんどの時間を自宅で過ごす。
- ・家族以外の人との交流がない（本人だけでなく家族も同居している家族以外とは関わりをさける傾向がある）
- ・長期間続いている
- ・統合失調症などの精神患者の症状によるものではない

都道府県、指定都市に「ひきこもり」に特化した支援機関、相談窓口「ひきこもり地域支援センター」を設けている。

「ひきこもり地域支援センター」を第一次窓口とし、「民間団体」「教育団体」「福祉、行政関係」「就労関係」「保健医療関係」などの適切な機関に繋ぎ自立への支援をしている。

現在、40～64歳の人、本人5,000人と同居する成人を対象にした内閣府調査で、61万人以上の中老年の「ひきこもり」がいる。

「ひきこもり」は精神患者から始まることもある。



—2時限目 名古屋市立大学睡眠医療センター センター長 中山 明峰 様—

～ひきこもりがもたらす、不眠、睡眠専門医が伝授する不眠の知識～
睡眠薬の歴史について

1960年代まで麻酔薬が使われていたが、自殺者が多発する。

1960年以降は精神安定剤（ベンゾジアゼピン）が使用される。

2000年以降ベンゾジアゼピンの量を減らし入眠剤と呼ばれる。

2010年以降 睡眠剤と呼ばれ、処方の規定が厳しくなる。

ひきこもりの改善をするには、規則的な生活が重要。

小学生は9～10時間の睡眠をとることが、とても大切である。



——閉会の辞 黒川副会長より——

以上
書記：松本 裕介

同セミナーの様子は YouTube にて動画配信されております。

<https://youtu.be/Vdas7Ts2mT0>